

平成29年度サクラマス幼魚（スモルト）放流式



御神酒流しを行い、大漁を祈願する越善靖夫村長



関係者による放流の様子

5月24日（水）、老部川内水面漁業協同組合（坂本石蔵組合長）のサクラマスふ化場で、村内各漁協をはじめ、県・村関係者等60名出席のもと、サクラマス幼魚（スモルト）放流式が行われました。

この放流事業は、主に沿岸海域でのサクラマスの水揚げ増大を図ろうと、昭和60年のサクラマスふ化場完成とともに毎年実施しているものです。今回のサクラマス幼魚（スモルト）放流式では、平成28年8月中旬から10月上旬にかけて老部川に遡上した親魚から採卵した幼魚と、3年間飼育した池産系親魚から採卵した幼魚で、ふ化してからおよそ1年6ヶ月間飼育した、平均尾叉長13・2センチ、平均体重23・1グラムの幼魚約2万尾が、関係者の手により放流されました。

なお、今年は全体で幼魚約6万5千尾、稚魚約16万9千尾の計約23万4千尾を、村内の河川に放流する予定となっています。今後も継続的にサクラマス幼魚や稚魚放流を実施することで、沿岸海域での水揚げと河川回帰の増大に、大いに期待がもてるものと思われます。

平成29年度東通村植樹祭



朝から雨が降る中、170名の方々が参加



植樹の様子

6月10日（土）、尻労共有林において平成29年度東通村植樹祭が行われました。

この植樹祭は、東通村緑化推進委員会（越善靖夫会長）が「森林保護と森林が作り出す水の循環による豊かな漁場づくり」を目的として、平成13年度から毎年実施しているもので、今年で17回目を迎えます。

来賓の方々によるオオヤマザクラ11本の記念植樹と、参加者全員によるコナラ、ヤマモミジ、ブナ、トチ、ミズナラの5種類の苗木550本の植樹が行われました。

森が作る栄養素は、雨水に溶け、川を通して海に流れ、海藻や、魚の餌になるプランクトンを育てます。

私たちの暮らしを支える豊かな森を守り、実り豊かな漁場を維持するため、今後も「育てる活動」に積極的に取り組んでいきます。